

令和7年度プロジェクト研究報告書

プロジェクト研究3

『小中学生のインターネット依存に対する予防プログラムの開発』

1. 担当者：原田隆之

2. 令和7年度の実施状況

・ 構成員

今和泉 卓也、大城 めぐみ、久川 浩太郎、黒木 愛、佐久間 直也、萩庭 圭子

・ 委員会、会合の開催日と内容

2025年8月27日に本プロジェクトの研究協議をオンラインにて実施し、作成した予防プログラムや各学校での研究参加者のリクルート方法について意見交換を行った。

2026年6月9日に本プロジェクトの研究協議をオンラインにて実施し、プログラムの実施結果についての報告および意見交換を行った。

・ 実施事項

2025年10月～12月にかけて予防プログラムを実施し、その後、分析を行った。

3. 令和7年度において得られた成果

本研究では、小学5年生から中学3年生までの子どもとその保護者を対象として、家族で取り組むインターネット依存予防プログラム「FAPPI (Family-based Prevention for Problematic Internet use)」を開発し、その実施可能性および予備的効果を検討した。研究には46家庭が参加し、介入群と対照群にランダムに割り付けた。このうち、ベースライン評価を完了した介入群19家庭、対照群14家庭の計33家庭を分析対象とした。介入群には、認知行動療法の考え方に基づく全4回・各60分のオンライン親子プログラムを実施した。その結果、オンライン形式による親子参加型プログラムとしての実施可能性は高いことが示され、保護者が一方的に制限を強める関わりは低下し、子どもと相談しながらルールを設定する関わりが増加する傾向もみられた。

4. 今後に向けた課題

小中学校では、子どものインターネット依存や問題使用が継続的な課題となっている。今回得られた知見を踏まえて、プログラム内容および研究方法を改善し、本試験につなげていくことが求められる。本研究成果は学会誌に投稿予定である。